


関西大学 SDGs パートナー登録団体一覧（五十音順）

2024年1月登録

NO.	団体名	SDGs への取組概要	目指すゴール
1	社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会	<p>私たちの協会は、1977（昭和52）年の設立以来、幅広い分野で障がい者の自立と社会参加を促進するための支援に取り組んでいます。現在は、障がい者のスポーツ振興、更生療育センターの運営、障がい者の就労支援の施設・事業の管理・運営、障がい者の相談支援などの事業という4分野の事業を展開しています。</p> <p>スポーツ振興は「障がい者スポーツ振興部」が担当し、スポーツ振興室、長居障がい者スポーツセンター（SC）、舞洲障がい者SC（愛称「アミティ舞洲」）の3部署を置き、大阪市からの指定管理を受けて、運営しています。部の基本方針として、「障がいのある誰もが、いつ一人で来館してもスタッフや仲間がいて、安心していろいろなスポーツを楽しむことができる」を掲げています。</p> <p>スポーツ振興室は、障がい者の国民体育大会にあたる「全国障害者スポーツ大会」の大阪市代表選手団の選考と派遣▽パラスポーツ指導員の養成・研修▽障がい者を対象としたスキー教室の開催（今年度で第50回）▽国際親善車いすバスケットボール大阪大会の主催・主管（今年度が実質第20回）▽地域の学校や自治体、福祉施設等と連携しての地域振興などを担当しています。</p> <p>長居SCは1974（昭和49）年5月、日本で初めての「障がい者専用」のスポーツ施設として開設されました。舞洲SCは1997（平成9）年10月の設立で、パラリンピック競技「ボッチャ」のナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設にも指定されています。これまでに、パラリンピック、デフリンピックの日本代表の選手やメダリスト、スタッフらを多数輩出する傍ら、障がいのある人の「生涯スポーツ」の場としての役割も同時に果たしてきました。例えば、パラ陸上、パラ水泳、パラバドミントンといった競技の日本選手権は、長居SCでの活動や大会がルーツになっています。また、「障害者サッカー」7競技のうち、選手に重度障がい者が多い電動車いすサッカーも、長居SCが発祥地です。今年度には、「スポーツとSDGs」をテーマに、国際パラリ</p>	

		<p>ンピック委員会（IPC）のマセソン美季理事（長野パラリンピック金メダリスト）によるオンラインのSDGs講演会を開きました。また、近年は、コロナ禍で外出できなかつた時などに、オンラインでのヨガ・体操教室を開いたほか、障害の有無に関係なく参加できるスポーツ関連事業も続けるなど、「だれも取り残さない」事業開発に努めています。</p>	
2	株式会社 山陽	<p>有害な化学物質の排出削減(排水処理・廃棄物管理)の実施、水利用の効率改善(節水)による環境に配慮した製品づくりを実施。グリーン調達ガイドラインを制定し、環境保全に積極的な企業様・製品を優先的に調達。100%食肉の副産物である牛原皮の使用に加えて、有機溶剤系から水性系塗料への移行、植物性材料の使用などから化石の使用の削減する製品を作っている。</p>	
3	高知県	<p>「高知県みどりの学習旅行」の実施と磨き上げ 日本一の森林率（≒84%）の高知県でも特に林業が盛んな地域である高幡地域等で森とともに暮らす人々の営みに触れながら、SDGsにつながる気づきや地域課題の解決の糸口を考える旅になるよう学生によるモニターツアーを行う。 モニターの声や本ツアー自体の結果は公開するなどし、地域の資源や体験学習旅行の目的地としての魅力の拡散・拡大につなげる。 地域側もSDGsの観点を取り込み、中山間地域のあらゆる素材を見直し、地域課題解決策につなげる。</p>	
4	コマニー株式会社	<p>当社は、2018年4月に「コマニーSDGs宣言」を行いました。2030年に私たちが目指す姿として掲げた、「Empower all life～一人一人が光輝く社会に貢献～」の実現は、SDGsが目指す「より大きな自由における普遍的な平和の強化を追求する」と一致していると考えています。すべての人の幸福に貢献する価値創造モデル、「コマニーSDGs(メビウス)モデル」を経営に実装して活動を展開しております。</p>	